



恩師に成長を見せた バスケットボール部の夏

8月9日(日)、バスケットボール部の交流戦が行われました。9時30分からは男子、15時30分から女子が、ともに和太附属中と対戦しました。新型コロナウイルス感染症の対応策として、対人での練習が長く制限されていた



バスケットボール。その上、本校では、体育館が使用できない時期が長引き、思うように練習が積めなかった本校バスケットボール部については、厳しい交流戦となりました。結果として、男女ともゲームには敗れましたが、最後までコートを走り回り、ベンチから応援し、全力を尽く

す姿には感動しました。その様子を観ていた、この春まで指導して下さった楠本(旧姓、中尾)朱織先生は、「男女ともチーム力は上がってました。キャプテンを中心に、よくここまでやってきたとほめてあげたいです。」と話してくれていました。



大会以上の緊迫感漂わす演武会 柔道部の夏

全日本柔道連盟のガイドラインにより、代替の試合すら許されなかった柔道部ですが、8月15日(土)、本校柔道室において、演武会を開きました。日頃過ごしている場所で、いつもの仲間だけの演武会ではありましたが、柔道部員の真剣なまなざしと一つ一つ繰り出す



技への姿勢が、大会以上に張りつめた心地よい緊張感を生みました。試合に勝つ、負けるといったことの先にある柔道の目的は、「身体を鍛練して強健にし、精神の修養につとめて人格の完成をはかり、社会に貢献すること」であると

言われています。本校柔道部の部旗には「精力善用、自他共栄」と記されています。このことの意味をあらためて認識しました。キャプテンの東琉葵亜さんが、3年学年集会で、試合ができないことへの不満は口にせず、試合ができる他の部に激励の言葉



を述べていましたが、まさに柔道で学んだ精神の顕れだと思います。演武会において、柔道の、部活動の本当の意義を示してくれた柔道部員のみなさん、ありがとうございました。